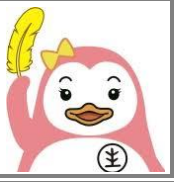
第７４回“社会を明るくする運動”作文コンテスト　高砂市保護司会長賞



「保護司という仕事を知って」高砂市立高砂中学校　３年 玉野 理乃

この作文を書くにあたり、学校からもらった冊子を見ていると「保護司」という言葉を目にした。少し前にテレビのニュースで保護司の殺人事件があったことを思い出した。令和６年５月２６日、滋賀県大津市で保護司の６０歳の男性が自宅で血を流して死亡していたという事件だ。男性を刺して殺害したとして逮捕されたのは、男性が立ち直りを支援していた保護観察中の３５歳の男だったいう。この事件を知った時は、「保護司」という言葉自体、存在自体初めて知った。そして、どうして犯罪を犯した人の支援をするのだろう、怖くないのかな、私だったら関わりをもつ事さえ嫌なのに、と感じていた。

私は、保護司とはそもそもどんな仕事なのか調べてみた。保護司とは犯罪や非行した人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアのことで、保護司法に基づき法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員であるが給料は支給されない、ということが分かった。月に数回、保護観察中の人と自宅などで面会して社会復帰の手助けをするという。私は、犯罪を犯した人を支援するために無給で働くのか、ますます分からなくなった。「保護司」として働くことは、私は思いもつかない、何かメリットでもあるんだろうか。何のために保護司をするのか。

保護司になる人はどんな人なのだろうか。犯罪や非行に走った人の更生をお手伝いし、社会復帰を支えるボランティアで無給・・・そんなことができる人、である。インターネットで保護司の人の思いや活動を知っていくにつれて保護司の方々の願いのようなものがみえてきた。犯罪を減らしたい、被害を出したくない、対象者に更生してほしい。そのようなことを心から願って尽力している。私はそんなことができる人は、困っている人を放っておけない性格、弱者の味方、正義感の強い人、面倒見がよく誰からも慕われる、地域の人々が安全・安心に暮らせることを願っている、そんな人間味あふれる人であろうと思う。安全で住みやすい社会にするために行っておられるのだ。

この保護司が殺害された事件、殺害された事件、逮捕された容疑者の男は大津市内のコンビニから現金を奪った強盗の罪で懲役３年保護観察付き執行猶予５年の判決を受けていた。保護司を殺害した動機は、一方的に不満を募らせていたという。容疑者のものとみられるSNSのアカウントには、「全然保護しない」「保護って言葉は要注意ワード」などの書き込みがあった。犯行当時、保護観察中であり、容疑者の男が被害者の自宅で面会する予定の日であった。保護司の人は上半身を１０か所以上も刺されて命を落とした。二人の自宅は近くであり、それまでも３回面接を受けていたという。

保護司が殺害されるという事件は、６０年前に北海道であったが、それ以降はなく、非常にまれなケースといえるのだそうだ。このような残酷な事件が起きてしまった今、心配されるのは、今後保護司になることを躊躇する人が出てくるかもしれないということだ。今でさえ保護司の数が不足してきているという。

人間はそれぞれ、様々な環境で生まれ大人になる。その過程で何かの歯車が狂い犯罪を犯してしまうのだと思う。それは、生活のためであったり、未熟さであったり、無知であったり、ふとした瞬間に魔がさしてしまったり、いろいろな要因があるだろう。日常生活の中で、どんな人も犯罪を起こしてしまう可能性はあると思う。しかし、たとえ犯罪を犯してしまったとしても、すべての人に更生する機会は与えられるべきだと思う。心から反省し、自分が犯してしまった罪を償い、次は社会貢献できるような人間になる努力をする、それができる社会でならなければないと思う。そう考えると、それをサポートする保護司という仕事は社会の中で重要な役割を果たしていると思う。私は保護司が無給だと知った時、何かメリットはあるのだろうか、と思ったがそんな考えは飛んでいった。何かのきっかけで犯罪を犯してしまった人が、もう一度自分の人生を立て直そうとする、そんな人々を理解し、支え、励まし、支援するというすばらしい仕事なのだ。お金やメリットという視点で考えることではない。

私は保護司という仕事をしている人達に、心より尊敬の念を抱いた。そして私は、保護司という仕事を理解した今、保護司の方々と同じように、すべての人に更生の機会が与えられる平等な社会、そして安全で住みやすい社会になるよう心から願っている。